

# ふるさとと共に



大西 広志  
(霧の森)

### ■ぎっかけ

愛媛県四国中央市新宮町に、地域おこしを担う観光施設「霧の森」がある。この「霧の森」に在籍してもうすぐ3年。Uターンの一人として、少しはふるさとの役に立っているのだろうか？ 自らの行動を振り返り、自らに問う。

ここ新宮町は、かつて僕が幼少期の3年間を過ごした場所。わずかな期間だが、僕にとって、まぎれもないふるさとだ。時折、おばちゃん「大きくなつたねえ」と声をかけてくれる。「すっかり大きくなりました！」と答えるが、はたしてこのおばちゃん、誰だろう…。

新宮を離れ20年が過ぎていたが、戻ってきた僕を温かく受け入れてくれる。これが田舎の良さなのだろう。

ふるさとに何か出来ることはないか、自然と沸き起こった感情だった。

### ■新宮村

四国中央市は、平成16年に4市町村が合併して誕生した。合併で姿を消した多くの市町村同様、新宮村もまた四国中央市新宮町として、大きな自治体の小さな地域となった。「村」から「町」への格上げ



新宮村のお茶畑

だが、「対等合併」という名の「吸収合併」という現実に、長年親しんだ「村」が消えることへの寂しさを感じずにはいられない。

人口1500人ほどの小さな地域だが、香り日本一と評される「新宮茶」が昔から村内のいたるところで作られている。この新宮茶を使い、地域おこしの思いを乗せて全国に発信した「霧の森大福」が、好評を博している。

しかし、そんな地域おこしの思いとは裏腹に、地域の過疎化は止まらない。産業の衰退や高齢化など、未だ多くの課題を抱えたままだ。

### ■これからの地域づくり

「地域と何か関わっていけないだろうか」——そんな思いで始めたのが、中学生

と霧の森の共同企画「卒業生による記念植樹」だった。

このイベントは、中学校を卒業する子どもたちに、霧の森の景観を形づくる木々として、施設内に植樹をしてもらうというもの。折しも学校側は、財政難のため、学校行事として植樹を行なうことが困難となっていた。経費は企業、作業は学校。お互いの利点が一致したのだ。

今年で3年目を迎えるイベントだが、過去2度の植樹で植えられた木々は今年も見事に紅葉し、霧の森を鮮やかに彩ってくれた。年々増えていく木々に、少しずつだが地域との一体感を感じる。

これからの地域づくりでは、自分の住む地域をどのようにしていきたいのかを、その地域住民が主体的に考え、積極的に地域づくりに参加することが重要である。僕がふるさとに出来ることは、そのリーダーとなり、

子どもたちと語れる魅力溢れるふるさとを、地域の人と一緒に創っていくことだと勝手に思い込み、今日もひたすら空回りしている。



植樹後、みんなで記念撮影